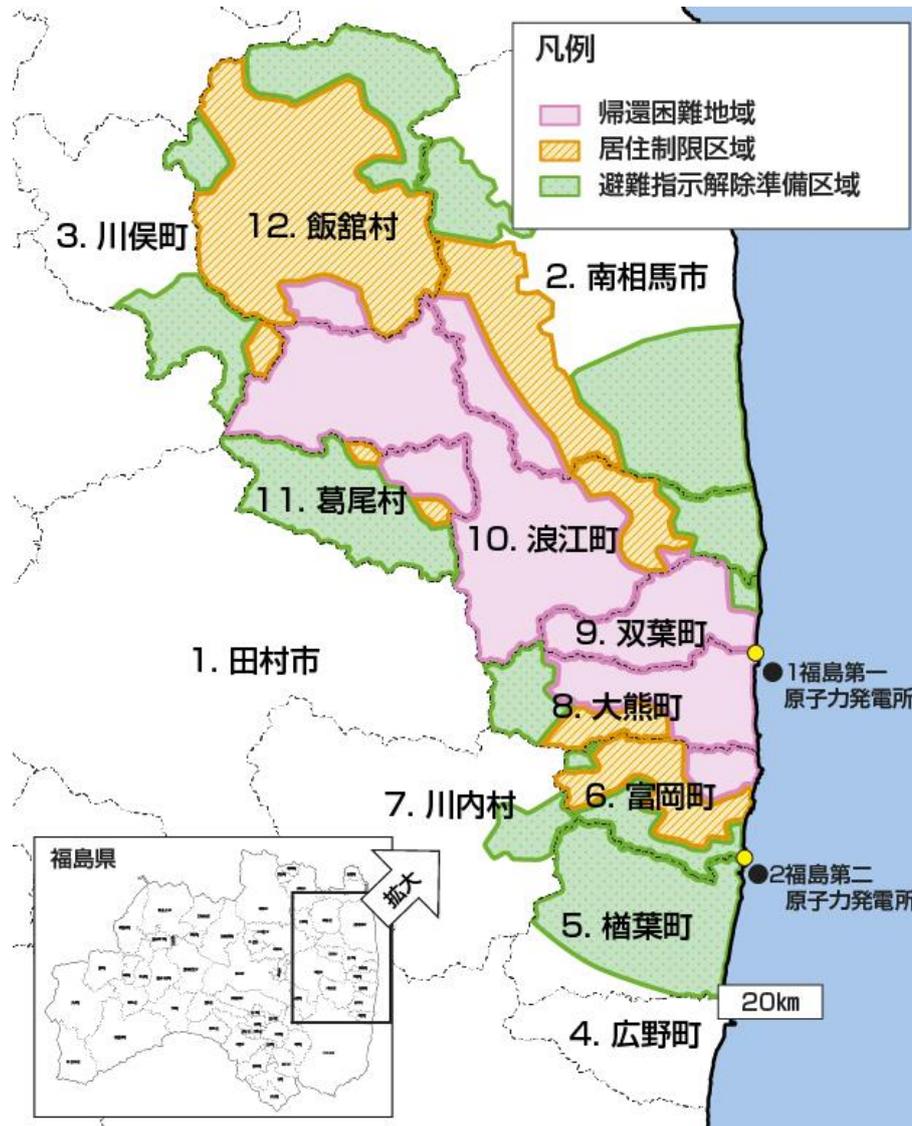


JSA 若手 夏の学校 2015 in 福島

-1st Circular-

「原発事故後の福島を直視し、 科学者の役割を考えよう」



避難指示区域の概念図(平成 26 年 10 月 1 日時点)

日時： 2015 年 9 月 11 日 (金) ~14 日 (月)

参加費： 20,000 円程度

主催：日本科学者会議(JSA)若手「夏の学校」2015 実行委員会

お問い合わせ： [jса.summer.school2015\(アット\)gmail.com](mailto:jса.summer.school2015(アット)gmail.com)

ホームページ： <http://www.jsa.gr.jp/05event/natu-index.html>

●企画の概要

今年も毎年恒例の「JSA 若手 夏の学校」を行います。夏の学校とは、全国の院生・若手研究者を対象に、特定の社会問題に関する実地見聞を行い、様々な専門家との議論を通じて問題を科学的に捉え、科学者の役割を改めて考え直すことを目的とする企画です。今回の夏の学校では、「原発事故後の福島を直視し、科学者の役割を考えよう」をテーマとしました。

2011年3月11日の東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故は、未だかつてない甚大な被害を日本社会にもたらしました。原発事故からすでに4年が経過していますが、福島では放射能汚染の脅威は今も残り続けており、人々の生活に深刻な影響を及ぼしています。現在も11万5000人の人々が福島県の内外に避難しています。また、放射能と向かいながら、現地で復興活動を行っている人もいます。私たちは、そのような福島の人々の現状を何も知りません。現地の人々の生の声を聞き、現地の様子を五感で捉えることが重要です。

福島の問題は極めて複合的な性格を持つ、根の深い問題です。歴史的に見れば「原子力ムラ」と呼ばれる利権集団が原発に依存した日本社会の在り方を形作ってきました。現在でも原発事故の責任を負う東電は被災者の立場に立った賠償を行わず、政府も原発の再稼働を推進する姿勢をとりつづけています。さらに、原発労働の問題、コミュニティの破壊と再建の問題、ストレスや不安に苦しむ人々のケアの問題、放射能汚染の人体への影響の問題など、自然科学・人文科学・社会科学にまたがる様々な問題が福島の原発事故に関係しています。

学際的な研究を重んじる JSA という学術団体だからこそ、様々な角度から福島の問題を直視することができます。ぜひ原発事故後の福島の問題を共に科学的に学び、科学者の役割を改めて考え直しましょう。

JSA 若手「夏の学校」2015 実行委員会

●スケジュール (仮)

	1日目	2日目	3日目	4日目
午前		原発避難者の実	福島市へ移動	研究活動報告
午後	移動	態・原発フィー	シンポジウム	移動
夕方	市議さんのお話	ルドワーク		
夜	交流会(南相馬)	交流会(南相馬)	交流会	

●日本科学者会議 (JSA) とは…

日本科学者会議 (JSA) は、自然・社会・人文の枠を越えてさまざまな科学者が集う、学際的な学会です。科学を人々の幸福に役立てるために、科学者が自覚と責任をもち、協力し合うことを目的として、1965年に創立されました。大学や研究機関、民間企業の研究者、技術者、教師、弁護士など科学に携わる広範な人々が参加しています。院生・若手研究者は、全国規模の交流合宿「夏の学校」、研究報告会、若手研究者の権利についてのシンポジウムなど、自分たちの関心や悩みに基づいて活動しています。※JSAは新しい会員を随時募集しています。

日本科学者会議(JSA)若手「夏の学校」2015 実行委員会

お問い合わせ： [jsa.summer.school2015\(アット\)gmail.com](mailto:jsa.summer.school2015(アット)gmail.com)

ホームページ： <http://www.jsa.gr.jp/05event/natu-index.html>